

ホーム

聖書を読む

聖書を知る

聖書のお求め

献金する

聖書協会とは

聖書図書館

ホーム > 聖書を知る > 新聖書翻訳の魅力—旧約詩文学を事例として—01

聖書を知る



- [聖書とは](#)
- [聖書翻訳の研究](#)
- [聖書ができるまで](#)
- [聖書翻訳の歴史](#)
- [口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳について](#)
- [新翻訳事業について](#)

新翻訳事業について

聖書事業懇談会
新聖書翻訳の魅力 —旧約詩文学を事例として—



小友 聡氏
2016年3月4日
於:IMY大会議室(名古屋市)

1. はじめに

今日、お集りの皆さんは、これから刊行される「新しい翻訳聖書」に大きな関心をお持ちの方々だと思います。ご承知の通り、日本聖書協会は、諸教会・諸キリスト教主義学校で現在広く用いられている新共同訳聖書に代わって、新しい日本語訳聖書(通称「標準訳」)の発行事業を進めています。この事業の意義については、すでに渡部信総主事をはじめ、事業担当の方々からも丁寧に情報が発信されています。次世代の翻訳聖書があつたら2-3年で—現時点では2018年—発行ということが広く知れ渡っています。

今、諸教会で用いられている新共同訳聖書はいずれこの新しい翻訳聖書に切り替わるのではないかと予想されます。まだ出版される前にこのようなことを申し上げるのは勇み足かも知れませんが、すでに発信されている情報から私たちはそういう予想を共有できるところまで来ています。2017年の宗教改革五百周年という大きな節目を前にして、この新しい翻訳聖書の出版に期待を寄せ、楽しみにしている方々が多いのではないのでしょうか。

私は原典翻訳担当者という立場から、この翻訳聖書の魅力についてお話をしたいと思います。すでに多くの翻訳担当者たちがそれぞれの視点から語っておられますので、私は特に旧約詩文学、コヘレトの言葉、雅歌、ヨブ記、ダニエル書の翻訳に限定して、お話をいたします(なお、ヨブ記とダニエル書については、残念ながら、現段階ではまだほとんど訳文の検討がされていませんので、わずかしか扱うことができません)。新しい翻訳聖書がどういうもので、それが具体的に教会で学校で使用可能なものなのか。そういう皆さんの問いに答えるお話ができればと思います。

ホーム

聖書を読む

聖書を知る

聖書のお求め

献金する

聖書協会とは

聖書図書館

ホーム > 聖書を知る > 新聖書翻訳の魅力—旧約詩文学を実例として—02

聖書を知る

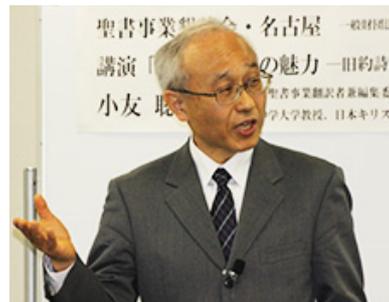


- [聖書とは](#)
- [聖書翻訳の研究](#)
- [聖書ができるまで](#)
- [聖書翻訳の歴史](#)
- [口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳について](#)
- [新翻訳事業について](#)

新翻訳事業について

聖書事業懇談会

新聖書翻訳の魅力 —旧約詩文学を実例として—



小友 聡氏

2016年3月4日

於: 大会議室(名古屋市)

2. なぜ、いま、新しい聖書翻訳か

なぜ、今、新しい翻訳聖書が必要なのか、という問いがあります。1987年発行の新共同訳聖書によるやくなじんできたところなのに、どうして別の聖書翻訳が必要なのか、教会や学校が混乱するのではないか、という問いが聞こえてきます。それに対して私は、言葉というものは生きているからだ、と申し上げたい。旧約聖書はヘブライ語(一部はアラム語)原典から翻訳されます。原典は不変ですが、原典研究は絶えず深化し発展します。この20-30年の間でも、聖書学の知見は変化し、かつて共有されていた考え方が現在では顧みられないということもあります。それが、聖書をどう翻訳するかということに直接関わって来るのです。たとえば、今日の聖書学的知見によれば、動物名のシュアル(新共同訳「狐」)は「ジャッカル」と表記されるのがふさわしく、ツェビー/ツェビヤ(新共同訳「かもしか」)は「ガゼル」と表記されるのが妥当です。「かもしか」は日本では「かもしかのような足」を連想させる動物ですが、雅歌2:7, 17などの「かもしか」はガゼルのこと。決してすわりとした足で走るスマートな動物ではありません。また、雅歌2:15はこれまで「小狐」と訳されましたが、小賢しい厄介者という「小狐」のイメージは日本人の特有のものであって、それは「ジャッカル」と訳されるべき聖書本来の意味とはだいぶ異なることに気づかされます。「小狐」や「かもしか」によって醸し出される雅歌の牧歌的イメージが「ジャッカル」や「ガゼル」の登場によってすっかり変わることに、がっかりする方もいるかも知れません。それは私たちが聖書をきちんと理解するために乗り越えねばならない課題です。

日本語そのものも時代とともに変わります。30年前に普通に使われていた言葉が今日では使われず、あるいは、そのニュアンスが変わるということがあります。たとえば「情報」という言葉がそうです。グローバル化が進んでいる今では「情報」という言葉は日常的に共有される知識を指しますが、かつて「情報」というと、情報員とか極秘情報という使われ方がされ、もっぱら隠匿された知見を意味したように思います。日本語のニュアンスは時代と共に少しずつ変化します。聖書原典は変わりませんが、それを翻訳する際の日本語はそのつど時代にふさわしい使い方が求められます。20-30年でどれほど変わるだろうかと疑問を持つ人がいるかも知れません。けれども、たとえば50年前に書かれた小説を私たちが読んで十分に理解はできても、その言葉の使い方の古さに辟易することがあります。若い人たちにとってはなおさらのことでしょう。やはり、言葉はそのつど検証され、その時代にふさわしい日本語かどうか

が吟味されねばなりません。新共同訳聖書はまだまだ使えるという人がいます。私もそう思います。しかし、新しい翻訳聖書が徐々に普及していく中で、私たちが今、「口語訳」について感じる言葉の古さというものを新共同訳聖書にもきっと感じるようになるでしょう。新共同訳聖書はこれからも使用できるでしょうし、また併用されるべきと思いますが、いずれ新しい翻訳聖書が圧倒的に支持されるようになるでしょう。このことは原典翻訳担当者として発言したいことです。



■このページに関するお問合せは

一般財団法人 日本聖書協会 翻訳部

〒104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

TEL.03-3567-1989 FAX.03-3567-4436 E-mail. transl@bible.or.jp

[ページの先頭に戻る ▲](#)

[▶ご利用規約](#) [▶プライバシーの保護について](#) [▶このサイトに関するお問い合わせ](#)

1997-2021 © Japan Bible Society, Allrights reserved. 当サイトに掲載されている情報の無断転載を禁止します。

ホーム

聖書を読む

聖書を知る

聖書のお求め

献金する

聖書協会とは

聖書図書館

ホーム > 聖書を知る > 新聖書翻訳の魅力—旧約詩文学を実例として—03

聖書を知る



- [聖書とは](#)
- [聖書翻訳の研究](#)
- [聖書ができるまで](#)
- [聖書翻訳の歴史](#)
- [口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳について](#)
- [新翻訳事業について](#)

新翻訳事業について



聖書事業懇談会

新聖書翻訳の魅力 —旧約詩文学を実例として—



小友 聡氏

2016年3月4日

於: 大会議室(名古屋市)

3. 新共同訳聖書の課題を越えて

ここで、もう一度、新共同訳の特性を確認しておきます。新共同訳がカトリック・プロテスタント両教会の礼拝で用いられる最初の日本語訳聖書であることは言うまでもありません。口語訳聖書より読みやすくなり、しかも礼拝で朗読されるに適した聖書になったということです。1987年の出版に至るまでに16年という歳月が費やされました。

新共同訳の特性についてさらに重要なことは、正真正銘の原典訳聖書だということです。新共同訳の旧約は、Biblia Hebraica Stuttgartensiaを底本として、これを翻訳しました。口語訳聖書は戦後に翻訳されましたが、原典からの直接の翻訳ではありませんでした。英語のRSVを基調としています。それ以前の文語訳は名訳の誉れ高いものですが、やはり英語の欽定訳KJVに従っています。新共同訳は、そういう意味では、最も信頼できる日本語聖書だと言うことができます。けれども、そこには、一つの大きな問題があります。それは、翻訳理論の問題です。新共同訳聖書翻訳事業には前史があり、「共同訳新約聖書」(1978)がまず出版されました。この「共同訳」の際に取り入れた翻訳理論がdynamic equivalence「動的対価理論」というものでした。つまり、直訳ではなく意識的な訳法を取り入れたのです。その後、新共同訳の事業に転換することによって、この翻訳理論は転換を余儀なくされました。意識的性格は払拭され、字義的翻訳に近付けられました。けれども、「新共同訳」(旧約)には当初の翻訳理論の残滓がいたるところに見られます。それは特に詩文学に顕著です。動的対価翻訳理論は、原語の意味をきちんと捉えて、それを動的に、ダイナミックに翻訳するのですから、聖書翻訳としてはとても意義ある方法です。この訳法による新共同訳の訳文はみごとなものです。意味がよくわかり、よみやすいのです。けれども、意味がよくわかるということは必ずしも原典に忠実であるということではありません。わかりやすくするために、もともとない言葉を補ったり、そのまま直訳しても十分に意味が通るにもかかわらず、不必要に説明を加えるという箇所が散見されます。たとえば、雅歌6:6です。

雅歌6:6

「歯は雌羊の群れ。毛を刈られ

洗い場から上って来る雌羊の群れ。

対になってそろい、連れ合いを失ったものはない。(新共同訳)

この節は、新共同訳では4:2とまったく同一です。けれども、原典では6:6に「毛を刈られ」がありません。新共同訳は4:2との並行を意識するあまり、原典にはない「毛を刈られ」を付け加えて、4:2と6:6を無理やり同一に訳しているようです。これは改善させるべき課題ではないかと思えます。

また、上記の例とは逆に、新共同訳は原典を省略することもあります。たとえば、ダニエル書11:1に注目してみます。

ダニエル11:1

「彼はわたしを支え、カづけてくれる。」(新共同訳)

「わたしはまたメデアびとダリヨスの元年に立って彼を強め、彼をカづけたことがあります。」(口語訳)

新共同訳と口語訳を比べて訳し方がずいぶん異なることに気づかせられます。ヘブライ語原典に忠実なのは口語訳の方で、新共同訳は恣意的な省略と読み替えをしています。原典通り、「メデアびとダリヨスの元年」だとすると、9章1節と同じ時代になってしまうので、新共同訳はその矛盾を避けたかったのでしょう。それによって、ダニエル書が読みやすくなるのは確かです。けれども、このような判断は余計な穿鑿ではないかと私には思われます。やはり原典に忠実であるべきでしょう。

新しい翻訳聖書はこういう新共同訳の課題を把握した上で、原典の息吹をふさわしい日本語できちんと表現することを目指しています。言い換えると、新共同訳がひとたび開いた道を進んで、訳文をさらに原典に近付けるという方向です。もちろん、原典のニュアンスに近い日本語を探しても、それが日本語としてきちんと意味が通り、礼拝での朗読に耐えうるものでなくてはなりません。そのために日本語担当者との共同作業において、多くの時間をかけ、最もふさわしい言葉を探し続ける闘いがなされます。



■このページに関するお問合せは

一般財団法人 日本聖書協会 翻訳部

〒104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

TEL.03-3567-1989 FAX.03-3567-4436 E-mail. transl@bible.or.jp

[ページの先頭に戻る ▲](#)

[▶ご利用規約](#) [▶プライバシーの保護について](#) [▶このサイトに関するお問い合わせ](#)

1997-2021 © Japan Bible Society. Allrights reserved. 当サイトに掲載されている情報の無断転載を禁止します。

ホーム

聖書を読む

聖書を知る

聖書のお求め

献金する

聖書協会とは

聖書図書館

ホーム > 聖書を知る > 新聖書翻訳の魅力—旧約詩文学を実例として—04

聖書を知る



- [聖書とは](#)
- [聖書翻訳の研究](#)
- [聖書ができるまで](#)
- [聖書翻訳の歴史](#)
- [口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳について](#)
- [新翻訳事業について](#)

新翻訳事業について

聖書事業懇談会

新聖書翻訳の魅力 —旧約詩文学を実例として—



小友 聡氏

2016年3月4日

於: 大会議室(名古屋市)

4. 新しい翻訳聖書の魅力

それでは、これから詩文書において具体的に新訳を提示して、読み比べをしてみたいと思います。まず、コヘレトの言葉から。

(1) コヘレトの言葉11:1-10

<新共同訳>

1. あなたのパンを水に浮かべて流すがよい。
月日がたってから、それを見いだすだろう。
2. 七人と、八人とすら、分かち合っておけ
国にどのような災いが起こるか
わかったものではない。
3. 雨が雲に満ちれば、それは地に滴る。
南風に倒されても
木はその倒れたところに横たわる。
4. 風向きを気にすれば種は蒔けない。
雲行きを気にすれば刈り入れはできない。
5. 妊婦の胎内で霊や骨組みがどのようになるのかも分からないのに、
すべてのことを成し遂げられる神の業が分かるわけではない。
6. 朝、種を蒔け、夜にも手を休めるな。
実を結ぶのはあれかこれか
それとも両方なのか、分からないのだから。
7. 光は快く、太陽を見るのは楽しい。
8. 長生きし、喜びに満ちているときにも
暗い日々も多くあろうことを忘れないように。

何が来ようとすべて空しい。

9. 若者よ、お前の若さを喜ぶがよい。
青年時代を楽しく過ごせ。
心にかなう道を、目に映るところに従って行け。
知っておくがよい
神はそれらすべてについて
お前を裁きの座に連れて行かれると。
10. 心から悩みを去り、肉体から苦しみを除け。
若さも青春も空しい。

<新訳(案)>

1. あなたのパンを水面(みなも)に投げよ。
月日が過ぎれば、それを見いだすからである。
2. あなたの受け取り分を七つか八つに分けよ。
地にそのような災いが起こるか
あなたは知らないからである。
3. 雲が満ちれば、雨が地に降り注ぐ。
木が南に倒れても、北に倒れても
その倒れた場所に木は横たわる。
4. 風を見守る人は種をまけない。
雲を見る人は刈り入れができない。
5. あなたは風の道がどうなっているかも知らず
妊婦の胎内で骨がどのようにできるかも知らず
知らないのだから
すべてをなす神の業など知りえない。
6. 朝に種を蒔き
夕べに手を休めるな。
うまくいくのはあれなのか、これなのか
あるいは、その両方なのか
あなたは知らないからである。

造り主を心に刻め

7. 光は快く、太陽を見るのは心地よい。
8. 人が多くの年月を生きるなら
これらすべてを喜ぶがよい。
しかし、闇の日が多いことも思い起こすがよい。
やって来るものはすべて空(くう)である。
9. 若者よ、あなたの若さを喜びなさい。
若き日にあなたの心を楽しませなさい。
心に適(かな)う道を
あなたの目に映るとおりに歩みなさい。
だが、これらすべてについて
神があなたを裁かれると知っておきなさい。
10. あなたの心から悩みを取り去り
あなたの体から痛みを取り除きなさい。
若さも青春も空だからである。

新共同訳の訳文については、すでにこれに親しんできた私たちには説明は不要かも知れません。新共同訳は8節までを区切りと見て、また10節も区切りと見るようです。いずれの段落も「空しい」で終わるからです。「空しい」という厭世的な結論で終わるゆえに、1-8節も「分かったものではない」(2節)、「蒔けない」「できない」(4節)、「分からない」「分かるわけではない」(5節)、「分からないのだから」(6節)、「

という懐疑的表現が強調される訳し方がされています。確かに、1970年代までは、著者コヘレトは世をはかなむ厭世主義者で懐疑主義者と見なされ、「コヘレトの言葉」は支離滅裂な論調で書かれている、というような解釈がされていました。1987年出版の新共同訳もそういう方向で翻訳されています。7節の明るい表現も懐疑的な文脈の中に埋没してしまい、懐疑主義者コヘレトの姿が浮き彫りにされます。「コヘレトの言葉」全体が支離滅裂な格言の羅列であるゆえに、小見出しも付けられないという判断がされたようです。実際また、私たちもそのように「コヘレトの言葉」を読んできました。けれども、現在では、「コヘレトの言葉」は一貫した思想的論調の書として解釈されるようになりました。新訳もその線で訳されます。訳文を比べるとおわかりになるはずです。

そこで、新訳をご覧ください。文節は1-6節、7-8節、9-10節と分かれます。7節の「光」「太陽」は12章2節と対応して囲い込み(インクルージオ)、11:7~12:2が一つの段落を構成します。この7節から段落が変わるので、「造り主を心に刻め」という小見出しをつけました。11:1-6を見てみましょう。この1-6節は一つの段落を構成します。新訳では、1-6節の否定的表現については、ヘブライ語の接続詞キーに注目し、きちんと「~からである」と訳されています。「知らない」(2節)、「知らない」(6節)はコヘレトの否定的な結論ではなくて、むしろ理由や根拠を説明しているのです。コヘレトの結論は「あなたの受け取り分を七つか八つに分けよ」(2節)、「朝に種を蒔き/夕べに手を休めるな」(6節)という命令です。地に災いが起こるかも知れないからこそ、受け取り分(神から与えられているもの)を皆で分け合いなさい。どの種が実を結ぶかわからないからこそ、朝から晩まで手を抜かず徹底して種を蒔きなさい、ということです。不可知性が逆に行動の根拠となるのです。コヘレトは懐疑主義者なのではなく、将来が**どうなるかわからないからこそ**、逆に、今、最善を尽くし、とことんまでやりなさい、と言っているわけです。コヘレトはすべてが「空しい」と考える厭世主義者では決してありません。ですから、ヘブライ語のヘベルは新共同訳のように「空しい」と訳されるより、口語訳のように「空」と訳される方がむしろ適切であって、新訳でもそう訳されています。コヘレトは現実主義者ですが、したたかで、終わりである死を前にしても前向きに考える傾向を持っています。それが、原典通りに新訳に反映され、11:7~12:2という次の段落からもそれを読み取ることができます。

さらに、新訳では注も付けられます。5節の「風」に注がついていて、脚注に「別訳で「霊」と記されます。新共同訳では「霊」と訳されていたからです。これは直前にある4節の「風」と同じヘブライ語ですから、「霊」よりも「風」と訳されるべきと判断されます。いずれにしても、新訳は新共同訳よりも、原典に即してコヘレトの言葉の重要なニュアンスをきちんと生かし、そこから意味を汲み取ることができるような翻訳がされていると思います。



■このページに関するお問合せは

一般財団法人 日本聖書協会 翻訳部

〒104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

TEL.03-3567-1989 FAX.03-3567-4436 E-mail. transl@bible.or.jp

[ページの先頭に戻る ▲](#)

[▶ご利用規約](#) [▶プライバシーの保護について](#) [▶このサイトに関するお問い合わせ](#)

1997-2021 © Japan Bible Society, Allrights reserved. 当サイトに掲載されている情報の無断転載を禁止します。

ホーム

聖書を読む

聖書を知る

聖書のお求め

献金する

聖書協会とは

聖書図書館

ホーム > 聖書を知る > 新聖書翻訳の魅力—旧約詩文学を事例として—05

聖書を知る



- [聖書とは](#)
- [聖書翻訳の研究](#)
- [聖書ができるまで](#)
- [聖書翻訳の歴史](#)
- [口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳について](#)
- [新翻訳事業について](#)

新翻訳事業について

聖書事業懇談会

新聖書翻訳の魅力 —旧約詩文学を事例として—



小友 聡氏

2016年3月4日

於: 大会議室(名古屋市)

(2) コヘレトの言葉3:9-15

<新共同訳>

9. 人が労苦してみたところで何になろう。
10. わたしは、神が人の子らにお与えになった務めを見極めた。
11. 神はすべてを時宜にかなうように造り、また永遠を思う心を人に与えられる。それでもなお、神のなさを業を始めから終わりまで見極めることは許されていない。
12. わたしは知った
人間にとって最も幸福なのは
喜び楽しんで一生を送ることだ、と
13. 人だれもが飲み食いし
その労苦によって満足するのは
神の賜物だ、と。
14. わたしは知った。
すべて神の業は永遠に不変であり
付け加えることも除くことも許されない、と。
神は人間が神を畏れ敬うように定められた。
15. 今あることは既にあったこと
これからあることも既にあったこと。
追いやられたものを、神は尋ね求められる。

<新訳(案)>

9. 人が労苦したところで、何の益があろうか。
10. わたしは、神が人の子らに苦勞させるよう与えた務めを見た。
11. 神はすべてを時に適って麗しく造り、永遠を人の心に与えられた。だが、神がなされた業を人は初めから終わりまで見極めることはできない。

12. わたしは知った。
一生の間、喜び、幸せを造りだす以外に
人の子らに幸せはない。
13. また、すべての人は食べ、飲み
あらゆる労苦のうちに幸せを見つめる。
これこそが神の賜物である。
14. わたしは知った。
神がなさることはみなとこしえに変わることがなく
加えることも除くこともできない。
こうして、神は、人が神を畏れるようになされた。
15. 今あることはすでにあった。
これから起こることもすでにあった。
神は過ぎ去ったものを探し求める。

この3:9-15はコヘレトの言葉ではよく知られた箇所です。新共同訳になじんできた者にとって、新しい訳を受け入れるには抵抗があるかも知れませんが、見ていきましょう。

まず導入9節の「何になろう」(新共同訳)は、新訳では「何の益があらうか」と訳され、コヘレトのキーワードの一つ「益(イトローン)」がきちんと訳出されます。新共同訳では、コヘレトを快楽主義者のように見る傾向があり、12節は「人間にとって最も幸福なのは／喜び楽しんで一生を送ることだ」と訳されています。けれども、コヘレトは決して快楽主義者ではありません。これに対して新訳は、できるだけ原典に忠実に、「一生の間、喜び、幸せを造りだす以外に／人の子らに幸せはない」と訳されます。次の13節の「労苦によって満足する」(新共同訳)という表現は、「労苦によって幸せを見つめる」と訳され、これもまた原典のヘブライ語の息吹をきちんと伝える訳文になっています。原典に忠実という点では、11節の「永遠を思う心」(新共同訳)は、新訳で「永遠」と訳されます。「～を思う心」は原文にはないからです。さらに、15節の「追いやられたもの」(新共同訳)は、「過ぎ去ったもの」と正しく訳されますが、これについては注が付けられ、「別訳「追いやられたもの」」を脚注で示しています。以上、新共同訳と違う点を指摘しました。新訳が新共同訳のわかりやすい訳文を継承し、できるだけ原典に近付ける努力がされていると思います。原典に忠実であっても礼拝での朗読に適するものでなくては意味がありません。その課題についても新訳の訳文は十分な検討がされていると思います。

次に雅歌の新訳を紹介しましょう。



■このページに関するお問合せは

一般財団法人 日本聖書協会 翻訳部

〒104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

TEL.03-3567-1989 FAX.03-3567-4436 E-mail. transl@bible.or.jp

[ページの先頭に戻る ▲](#)

[▶ご利用規約](#) [▶プライバシーの保護について](#) [▶このサイトに関するお問い合わせ](#)

1997-2021 © Japan Bible Society. Allrights reserved. 当サイトに掲載されている情報の無断転載を禁止します。

ホーム

聖書を読む

聖書を知る

聖書のお求め

献金する

聖書協会とは

聖書図書館

ホーム > 聖書を知る > 新聖書翻訳の魅力—旧約詩文学を事例として—06

聖書を知る



- [聖書とは](#)
- [聖書翻訳の研究](#)
- [聖書ができるまで](#)
- [聖書翻訳の歴史](#)
- [口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳について](#)
- [新翻訳事業について](#)

新翻訳事業について

聖書事業懇談会

新聖書翻訳の魅力 —旧約詩文学を事例として—



小友 聡氏

2016年3月4日

於: 大会議室(名古屋市)

(3) 雅歌1:9-11

<新共同訳>

9. 恋人よ、あなたをたとえよう
 ファラオの車をひく馬に。
10. 房飾りのゆれる頬も
 玉飾りをかけた首も愛らしい。
11. あなたに作ってあげよう
 銀を散らした金の飾りを。

<新訳(案)>

9. 恋人よ、わたしはあなたを
 ファラオの戦車隊の雌馬にたとえよう。
10. 頬飾りが揺れるあなたの頬も
 首飾りをかけたあなたの首も美しい。
11. 私たちが、銀をちりばめた金の首飾りを
 あなたに作ってあげよう。

雅歌の新共同訳は、体言止めを多く用い、詩文としてキレのある訳し方をしています。そのために、どうしても省略や簡略化が目立ちます。新訳は、それをもう少し原典に近づける努力をしています。9節の「ファラオの車」(新共同訳)はファラオの戦車(二頭馬車か三頭馬車)のことで、しかも複数ですから、新訳では「ファラオの戦車隊」と訳されます。「馬」(新共同訳)も原典通り「雌馬」と訳されます。戦車をひくのは雄馬ですが、その中に雌馬がいるとすれば、雄馬たちは興奮状態になって大混乱に陥ります。恋人(女性)がそれほど際立った存在であることを新訳はきちんと表現しました。また、11節の主語は「わたしたち」ですから、それも新訳は正確に表現しています。雅歌は単なる世俗的恋愛歌と解釈さ

れることがあります。正典として教会できちんと読まれるべき書です。何よりも礼拝において違和感なく読まれることが望まれます。新共同訳と比べて、皆さんは新訳をどう評価するでしょうか。

(4) 雅歌2:7

<新共同訳>

エルサレムのおとめたちよ
野のかもしか、雌鹿にかけて誓ってください
愛がそれを望むまでは
愛を呼びささない。

<新訳(案)>

エルサレムの娘たちよ、
ガゼルや野の雌鹿にかけて、わたしに誓ってください。
愛が望むまで、目覚めさせず、揺り起こさない。

新共同訳に慣れ親しんだ者にとっては、手直しをしたくない聖句ですが、先ほど指摘したように、新訳では「かもしか」は「ガゼル」と訳されます。また、「愛を呼びささない」は、原文通り、動詞を否定形で二つ繋ぎ、「目覚めさせず、揺り起こさない」と新訳では訳しました(3:5, 8:4も同様)。礼拝で朗読される場合にも、受け止められる訳文ではないでしょうか。



■このページに関するお問合せは

一般財団法人 日本聖書協会 翻訳部

〒104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

TEL.03-3567-1989 FAX.03-3567-4436 E-mail. transl@bible.or.jp

[ページの先頭に戻る ▲](#)

[▶ご利用規約](#) [▶プライバシーの保護について](#) [▶このサイトに関するお問い合わせ](#)

1997-2021 © Japan Bible Society, Allrights reserved. 当サイトに掲載されている情報の無断転載を禁止します。

ホーム

聖書を読む

聖書を知る

聖書のお求め

献金する

聖書協会とは

聖書図書館

ホーム > 聖書を知る > 新聖書翻訳の魅力—旧約詩文学を実例として—07

聖書を知る



- [聖書とは](#)
- [聖書翻訳の研究](#)
- [聖書ができるまで](#)
- [聖書翻訳の歴史](#)
- [口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳について](#)
- [新翻訳事業について](#)

新翻訳事業について

聖書事業懇談会

新聖書翻訳の魅力 —旧約詩文学を実例として—



小友 聡氏

2016年3月4日

於：大会議室(名古屋市)

(5) 雅歌3:1-4

<新共同訳>

1. 夜ごと、ふしどに恋い慕う人を求めても
求めても、見つかりません。
2. 起き出して町をめぐり
通りや広場をめぐって
恋い慕う人を求めよう。

求めても、あの人は見つかりません。

3. わたしが町をめぐる夜警に見つかりました。
「わたしの恋い慕う人を見かけましたか。」

4. 彼らに別れるとすぐに
恋い慕う人が見つかりました。
つかまえました、もう離しません。
母の家に
わたしを産んだ母の部屋にお連れします。

<新訳(案)>

1. 夜毎に寢床で、わたしの魂を愛する人を探しました。
あの方を探しましたが、見つかりませんでした。
2. 「さあ起き出して、町を、通りや広場を巡りましょう。
わたしの魂の愛する人を探しましょう。」
わたしはあの方を探しましたが、見つかりませんでした。

3. 町を巡る夜警たちがわたしを見つけました。
「わたしの魂の愛する人をあなたたちは見かけましたか。」
4. 彼らに別れを告げるとすぐ、わたしの魂を愛する人は見つかりました。
この方を抱きしめました。もう放しません。
わたしの母の家に、わたしを身ごもった人の部屋に、お連れします。

新共同訳は、「恋慕う人」を「求める」という恋愛詩として表現しています。すでに述べたように、今日、雅歌は宗教性をまったく保持しない恋愛歌だと説明する解釈は一般的ではありません。けれども、新訳はあくまで宗教性を重視し、「わたしの魂を愛する人」を「探す」という訳文にしました。「わたしの魂を愛する人」(口語訳では「わが魂の愛する人」)の繰り返しを省略せず、原典通りに訳しています。これについては、口語訳に戻ったという印象を持つ人もいるでしょう。礼拝で朗読されるに適した訳文にしようとする、確かに口語訳も無視することはできません。この箇所では、「探す」という動詞が4回繰り返され、「見つける(=見かける)」という動詞は5回繰り返されます。雅歌の著者はいわば言葉の追いかけっこをしているのですが、その原文の息遣いをそのまま日本語で表現する努力がされています。ちなみに、新共同訳の「ふしど」(1節)は文語でわかりにくいため、新訳では「寢床」としました。

(6) 雅歌5:1b

<新共同訳>

友よ食べよ、友よ飲め。
愛する者よ、愛に酔え。

<新訳(案)>

恋人たちよ、食べて飲みなさい。
愛する者たちよ、酔いなさい。

この新共同訳の訳文もすでに定着しています。けれども、新共同訳で「友よ」と訳されるヘブライ語は、先に引用した1:9の「恋人よ」の複数形であって、しかも呼びかけは一度だけです。新訳は原典通りに「恋人たちよ、食べて飲みなさい」と訳しました。また、「愛に酔え」(新共同訳)は意識で、「酔え」という命令形に目的語はありません。「愛に酔え」というように愛をことさら強調する訳し方は読み込み過ぎではないでしょうか。すでに定着した訳文ではありますが、新訳はそれを修正しています。

最後にヨブ記の新訳を紹介します。ヨブ記はまだ全体的な話し合いがされていないので、あくまで新訳の原案としてご理解ください。



■このページに関するお問合せは

一般財団法人 日本聖書協会 翻訳部

〒104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

TEL.03-3567-1989 FAX.03-3567-4436 E-mail. transl@bible.or.jp

[ページの先頭に戻る ▲](#)

[▶ご利用規約](#) [▶プライバシーの保護について](#) [▶このサイトに関するお問い合わせ](#)

ホーム

聖書を読む

聖書を知る

聖書のお求め

献金する

聖書協会とは

聖書図書館

ホーム > 聖書を知る > 新聖書翻訳の魅力—旧約詩文学を事例として—08

聖書を知る



- [聖書とは](#)
- [聖書翻訳の研究](#)
- [聖書ができるまで](#)
- [聖書翻訳の歴史](#)
- [口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳について](#)
- [新翻訳事業について](#)

新翻訳事業について

聖書事業懇談会

新聖書翻訳の魅力 —旧約詩文学を事例として—



小友 聡氏

2016年3月4日

於：大会議室(名古屋市)

(7) ヨブ記19:21-27

<新共同訳>

21. 憐れんでくれ、わたしを憐れんでくれ
神の手がわたしに触れたのだ。
あなたたちはわたしの友ではないか。
22. なぜ、あなたたちまで神と一緒にあって
わたしを追い詰めるのか。
肉を打つだけでは足りないのか。
23. どうか
わたしの言葉が書き留められるように
碑文として刻まれるように
24. たがねで岩に刻まれ、鉛で黒々と記され
いつまでも残るように。
25. わたしは知っている
わたしを贖う方は生きておられ
ついには塵の上に立たれるであろう。
26. この皮膚が損なわれようとも
この身をもって
わたしは神を仰ぎ見るであろう。
27. このわたしが仰ぎ見る
ほかならぬこの目で見ると。
腹の底から焦がれ、はらわたは絶え入る。

<新訳(案)>

21. わたしを憐れに思え、憐れに思え、あなたたち、わが友よ。
神の手がわたしを撃ったのだから。
22. なぜあなたたちは神のように、わたしを追い詰めるのか、
わたしの肉で飽き足らないのか。
23. どうかわたしの言葉が書き留められるように、
どうか碑文に刻まれるように。
24. 鉄の筆と鉛によって、
永遠に岩に彫り込まれるように。
25. わたしは知る。
わたしを贖う者は生きておられ、後に塵の上に立たれることを。
26. わたしの皮がこのように剥ぎ取られた後、
わたしは肉を離れて、神を見るであろう
27. このわたしが仰ぎ見る、
ほかの者ではなく、このわたしの目で見ろ。
わたしのはらわたは、わたしのうちで慕い焦がれる。

この箇所はヨブ記では最も有名なところですが、暫定訳である以上、多くを語ることはできませんが、これまでの新共同訳の訳文を尊重した上で、新たな判断をした訳文となっています。重要なことは、解釈上論争のある26節の「この身をもって」(新共同訳)を「わたしは肉を離れて」としたことです。口語訳に戻しました。文語訳以来、伝統的にそのように訳されてきました(岩波訳も「わが肉なしに」)。どちらの訳も可能ではありますが、ヨブの友人たちが肉にこだわる以上、ここは22節の同一表現「わたしの肉で」とは区別され、「肉を離れて」と訳す方が自然ではないかと思えます。ただし、新共同訳の訳文に親しんでいる方も多いので、これには注を付け、脚注に「別訳で「肉から」と記しました(新改訳も「肉から」)。もう一ヶ所、27節の新共同訳の訳文「腹の底から焦がれ、はらわたは絶え入る」は意訳です。新訳が原典通りです。ただし、「慕い焦がれる」と訳すべきか、「絶え入る」と訳すべきかで見解が分かれます。前者は肯定的な意味ですが、後者は否定的な意味になります。新共同訳は両方を取り入れる折衷的な意訳！をしました。新訳は、「慕い焦がれる」という肯定的な訳語を選びました(口語訳は「これを望んでこがれる」)。これについても、注を付け、脚注に「別訳は「絶え入る」と記しました。新しい翻訳は教会で安心して読んでいただけることを重要なことと考え、意訳や付加的潤色(24節の新共同訳「黒々と」は付加的潤色)を避けると同時に、わかりやすい翻訳をしています。



■このページに関するお問合せは

一般財団法人 日本聖書協会 翻訳部

〒104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

TEL.03-3567-1989 FAX.03-3567-4436 E-mail. transl@bible.or.jp

[ページの先頭に戻る ▲](#)

[▶ご利用規約](#) [▶プライバシーの保護について](#) [▶このサイトに関するお問い合わせ](#)

ホーム

聖書を読む

聖書を知る

聖書のお求め

献金する

聖書協会とは

聖書図書館

ホーム > 聖書を知る > 新聖書翻訳の魅力—旧約詩文学を実例として—09

聖書を知る

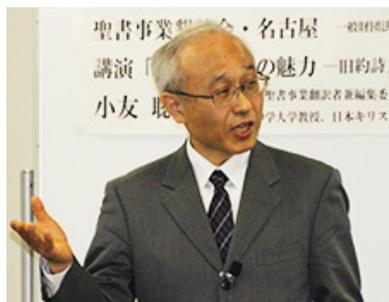


- [聖書とは](#)
- [聖書翻訳の研究](#)
- [聖書ができるまで](#)
- [聖書翻訳の歴史](#)
- [口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳について](#)
- [新翻訳事業について](#)

新翻訳事業について

聖書事業懇談会

新聖書翻訳の魅力 —旧約詩文学を実例として—



小友 聡氏

2016年3月4日

於：大会議室(名古屋市)

5. 結論

以上、旧約の詩文学について新しい翻訳の紹介をさせていただきました。「新聖書翻訳の魅力」という題をつけてお話をしてきましたが、皆さんにきちんと「魅力」を語る事ができたでしょうか。2018年に刊行予定の新しい日本語聖書は、すでに新約聖書はほとんど完成し、旧約聖書の翻訳もかなり進んでいます。あと半年すれば、ヨブ記やダニエル書についても訳文をたくさん紹介し、皆さんに新しい訳を十分に味わっていただけるのではないかと思います。私は詩文学の翻訳編集担当者ですが、これまで翻訳に携わる多くの方々と話し合い、時には激しく議論する中で、新しい翻訳は確実に新共同訳を超える、21世紀にふさわしい聖書になるだろうと確信しています。それは、ただ単に、これが原典に忠実で信頼できる翻訳というだけでなく、教会の礼拝で厳かに朗読され、大勢の信徒の方々がもっと聖書に親しみ、またその信仰生活が豊かにされるに違いないと思うからです。先日、読みました2月20日付のキリスト新聞に、新しい翻訳聖書に期待するものは何かというアンケートの結果報告が掲載されていました。第1に原典に忠実であること、第2に読みやすいものであること、それが読者の方々が期待することだと書いてありました。その期待には十分応える翻訳聖書になるでしょう。私は聖書学者としてだけでなく、教会の牧師としても、この新しい翻訳が現在の日本の教会に受け入れられるものになっていると思います。新共同訳聖書が出版されて30年になろうとしています、それをを超える次の時代がもうすぐ教会にやってきます。